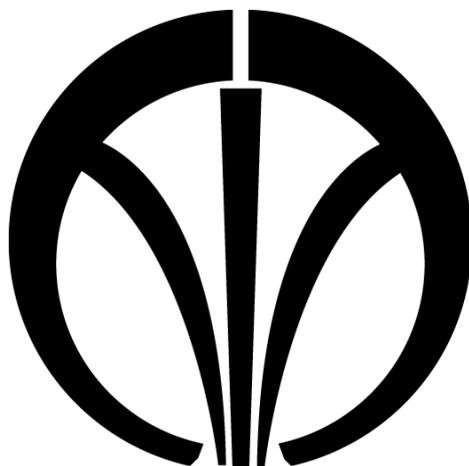


飯塚市学力向上推進プラン



令和6年10月

飯塚市教育委員会
学校教育課

飯塚市学力向上推進プラン目次

○ はじめに	・・・・・・・・ 1
【プラン1 日常的な授業改善】	・・・・・・・・ 2
～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～	
1 飯塚市協調学習推進事業	
2 「中学校授業改善研修会」の実施	
～グローバル化に対応した児童生徒の育成～	
3 外国語教育推進事業	
【プラン2 基礎・基本の徹底推進】	・・・・・・・・ 7
～学力の基盤となる「読み・書き・計算」と集中力向上の促進～	
1 多層指導モデルM I M	
2 徹底反復学習	
【プラン3 人材育成】	・・・・・・・・ 10
～指導力向上を目的とした人材育成の推進～	
1 「人材育成計画シート」の活用	
2 「小中学校助教諭指導力向上研修会」の実施	
【プラン4 学力向上検証改善サイクルの機能化】	・・・・・・・・ 12
～全市的な学力向上推進体制の確立～	
1 「学力向上ヒアリング」の実施	
2 教務担当者研修の強化	
3 飯塚市学力向上フォローアップ校の指定	
○ 次代の飯塚市を担うひとづくりについて	・・・・・・・・ 15
1 J A（ジュニア・アチーブメント日本）プログラム	
2 S T E A M教育	
○ 資料 令和6年度飯塚市小中学校学力向上推進プランロードマップ	・・・・・・・・ 16

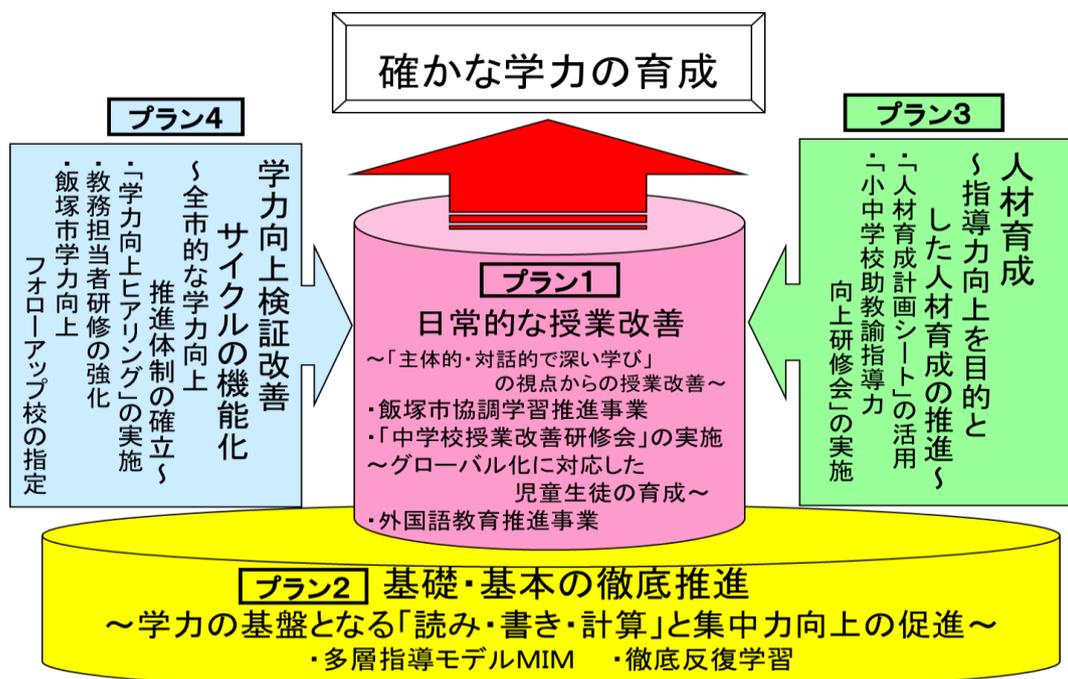
○ はじめに

本市では、第3次飯塚市教育施策の大綱において、「本物志向・未来志向のひとづくりのために」を基本理念とし、「本物」との出会いや体験を通して、自己や社会の「未来」を自らの力で前向きに創造していく子どもたちの育成を目指した取組を推進してきた。その基本目標である「かしこく やさしく たくましい子どもの育成」の達成に向け、未来の飯塚市を担う子どもたちの、知・徳・体にわたる「生きる力」（確かな学力、豊かな心、健やかな体）の確実な育成を基盤に、21世紀を生き抜く力（基礎力、思考力、実践力）の育成を目指している。

その中で、確かな学力の育成における教育の基本目標の達成に向け、本市では、平成23年度より3つの学習プログラム（多層指導モデルMIM、徹底反復学習、知識構成型ジグソー法による協調学習）を市内全小中学校に導入し、学力向上の取組を進めてきた。その結果、全国学力・学習状況調査では、市内小学校においては、令和6年度は、国語・算数の総合の標準化得点が全国平均を100とした時の数値に対し、105.6ポイントと、5.6ポイント上回る数値を見せており、一定の成果が見えてきた。中学校においては、令和3年度の98.3ポイントをピークにその後は93ポイント前後となっており、全国平均を超えるに至っていない。また、経年での学力の変化を見ると、学年があがるにつれ、全国や福岡県の平均との差が広がる傾向にあり、新学習指導要領が示す資質能力の育成について、課題が見られる現状がある。

今後、このような課題を改善するためには、読み・書き・計算を中心とした基礎・基本の確実な定着を進めながら、主体的・対話的で深い学びを視点とした日常的な授業改善に取り組む必要がある。また、若年教員や助教諭が増える中、その指導力向上に向けた人材育成や各学校における学力検査等の結果を受けた検証改善サイクルの確立を通して、確かな学力育成につなげていかなければならない。そこで、飯塚市教育委員会は、「日常的な授業改善」「基礎・基本の徹底推進」「人材育成」「学力向上検証改善サイクルの機能化」の4つの視点に基づいた【飯塚市学力向上推進プラン】を策定する。

【飯塚市学力向上推進プラン構想図】



【プラン1 日常的な授業改善】

『プラン1の設定にあたって』

新学習指導要領において、児童生徒に身につけさせるべき資質・能力が明確になり、改めて「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善の重要性が示された。児童生徒が、授業の中で主体的な学びを通して、仲間と協働しながら知識やアイデアを共有し、新しい解や納得解を生み出す力を育てていかなければならない。市内の児童生徒において、学力調査等の結果からも活用問題が苦手な傾向にあり、思考力・判断力・表現力の育成について、まだまだ課題があると思われる。特に全国学力・学習状況調査等において、学力向上に係る取組に改善が必要と思われる学校においては、学校全体として、日常的な授業が「主体的・対話的で深い学び」につながるような校内研修の体制づくりや、特に中学校においては、各教科の特質に応じた授業改善につながる効果的な研修を行っていく必要がある。また、英語教育については、毎年4月に実施される中学校のフクト標準学力検査では、中学校1年生では、実施した全年度において県平均は超えているものの中学3年生では県平均を下回る結果となっている。更に、これまで授業において、文法や単語・熟語の学習が多く、英語を話す機会が少なかったことから、外国人と英語でコミュニケーションのとれる人が少ないという課題があった。そこで、市が目指すグローバル化に対応した資質・能力の育成には、児童生徒が英語を話す人と触れあう機会を増やし、児童生徒の主体的な対話活動による基本的なコミュニケーションを重視した授業改善が重要であり、小学3年生から中学3年生までの7年間を見通した系統性をもたせた実践的な英語教育の充実を図る必要がある。

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～

1 飯塚市協調学習推進事業

(1) 目的

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習手法の獲得及び日常的な授業改善を目指す。

(2) 内容

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習手法である「協調学習」について、研修や授業公開及び「協調学習エキスパート教員」の養成を通してその学習手法を身に付けながら、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした日常的な授業改善を行う。

① 協調学習に関わる研修会等の実施

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて、CoREF*より講師を招いての講話、演習等を通じた研修により知見を高めることで、各学校における協調学習の推進による学力向上方策の充実を図る。

② 市内全小中学校における協調学習の公開授業の実施

市内小中学校において実施される協調学習に関わる研究発表会や校内授業研修会等を市内外に公開することによって、協調学習についての実践的研究を推進するとともに、協調学習に関する授業や協議会等を相互に参観する体制の整備を図る。

③飯塚市協調学習エキスパート教員の養成

飯塚市協調学習エキスパート教員は、学校長から推薦された小学校教職員2名、中学校教職員2名において、在籍校における協調学習の授業実践及びCoREFへの資料提供、CoREF主催の研修会及び新しい学びプロジェクト全国大会への参加等を通して市内小・中学校での研修会や授業研究における授業づくりや指導助言を行う。

*CoREF～「一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREFプロジェクト推進部門」の略称。全国の教育委員会・小中高等学校と連携して学習科学に基づく協調学習の授業づくり実践研究を展開する団体。

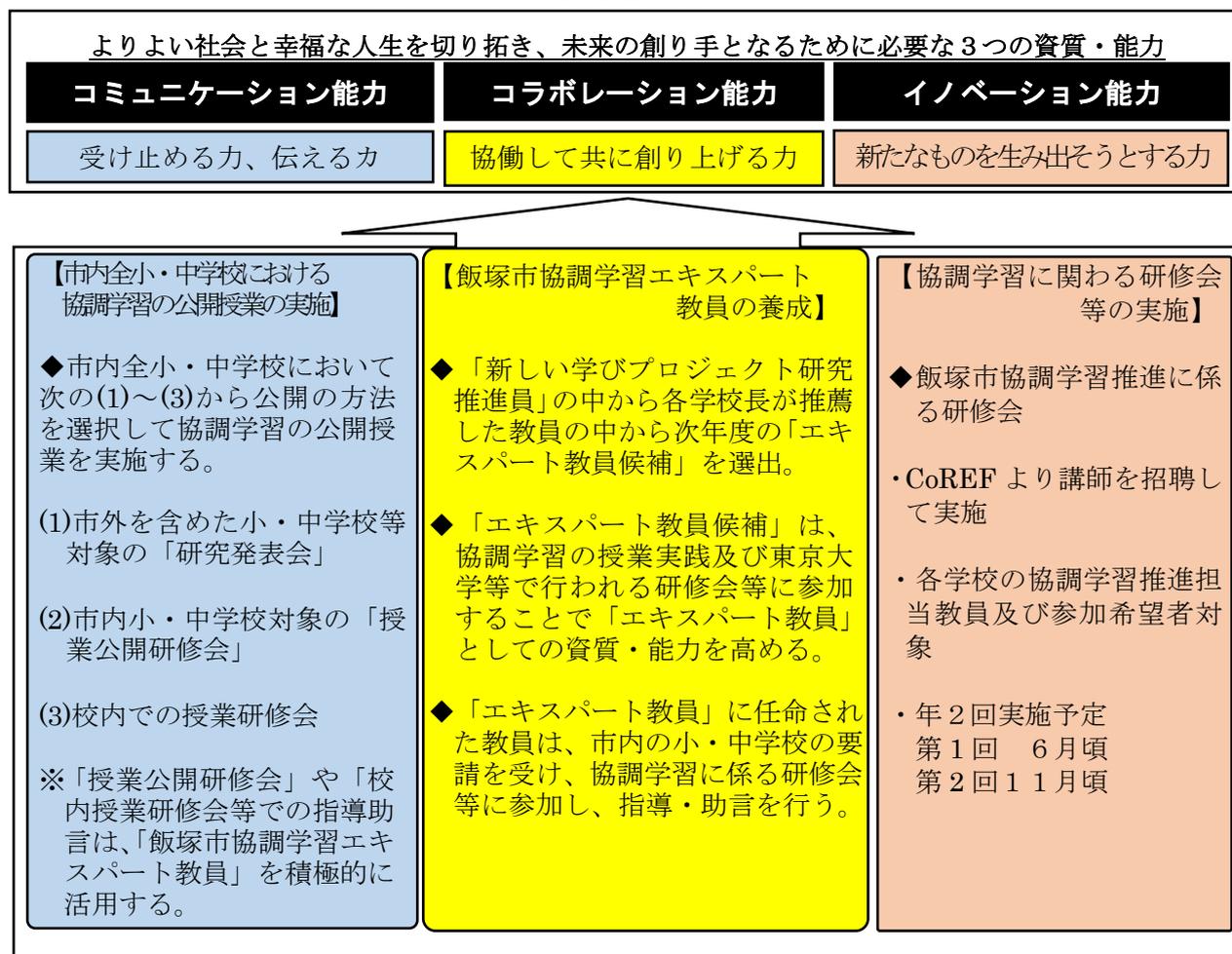
(3) 研修

「知識構成型ジグソー法」を用いた授業づくりについての研修会を年2回実施する。

	実施時期	研修内容
【第1回】	6月ごろ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善の視点
【第2回】	11月ごろ	協調学習の仮説検証授業

※参加対象 各小中学校の協調学習推進教員及びその他参加を希望するもの

【飯塚市協調学習推進事業全体構想図】



2 「飯塚市中学校授業改善研修会」の実施

(1) 目的

市内中学校の学力実態を受け、各教科の特質に応じた中学校教職員における授業改善に向けて、講義及び演習を通して、授業力の向上を目指す。

(2) 内容

飯塚市立中学校における学力の現状に関する説明及び各種学力調査問題の分析に基づいた授業づくりの講義・演習を行い、日常的に思考・判断・表現力を高めるための授業展開や、定期考査問題づくりができるよう、教科担当としての実践的指導力の向上を図る。

(3) 研修

実施時期	研修内容
9月ごろ	学力調査問題の分析に基づいた各教科における授業改善について等

※参加対象 各中学校の国語、社会、数学、理科、英語担当から各1名

～グローバル化に対応した児童生徒の育成～

3 外国語教育推進事業

(1) 目的

グローバル化に対応した児童生徒の育成（英語で基本的なコミュニケーションが可能な人材の育成）及び授業改善による、主体的な学びの実現と小中の円滑な接続を目指す。

(2) 内容

オンライン英会話やALTの活用及び外国語専科教員による専門的な学習指導を通して、児童生徒の主体的な対話活動により英語での基本的なコミュニケーション能力の育成を行う。

①オンライン英会話を取り入れた授業の実施

フィリピン講師とのオンラインによる直接指導による、対話活動を中心とした個に応じた学習展開（個別最適な学び）を実施する。

ア 小学校

5年生＝年10回（1対2 ペア学習）

6年生＝年 8回（1対1 マンツーマン学習）

イ 中学校

1・2年生＝年8回（1対1 マンツーマン学習）

3年生＝年6回（1対1 マンツーマン学習）

②ALT（外国語指導助手）の活用

担任とALTとのチームティーチングによりロールモデルの提示やALTとの対面による対話活動、日常的な会話による学習を実施する。

ア 小学校

3・4年生外国語活動＝年学級5回

イ 中学校

全学年外国語科授業＝年学級平均8時間

③小学校外国語専科による専門性の高い指導の充実

小学校における外国語科において、専門性の高い外国語科専科指導教員（以下、外国語専科教員という）が対話活動を中心とした指導を行うことで、児童の外国語科に係る資質・能力の育成を図るとともに専科による授業方法の経験、指導内容の充実により中学校への円滑な接続を図る。

ア 小学校6年生

年70時間 オンライン授業（年8回）含む各学級の外国語科の指導全て（年間70時間）を外国語専科教員が担当する。

イ 小学5年生

年10時間（オンライン授業10回のみ）

学級でのオンライン英会話（年間10時間）を外国語専科教員が主となって担当する。授業の年60時間は5年生担任による実施をする。

④外国語教育推進連絡協議会の設置

グローバル化に対応した児童生徒の育成のための、効果的な指導方法について協議することで授業改善についての具体的な方策を見出す。

ア 発達段階に応じた飯塚市がめざす児童生徒像の作成

- ・外国語教育の課題の整理と改善策の検討
- ・飯塚市版 CAN-DO リストの作成

イ 中学校 ALT、小学校オンライン英会話の見直しと授業での効果的な活用方法の検討

- ・課題の整理と改善策の検討

ウ 次年度からの ALT、オンライン英会話の導入方法の検討

- ・効果的な導入学年、学習内容の検討
- ・活用時期、期間、時数の検討

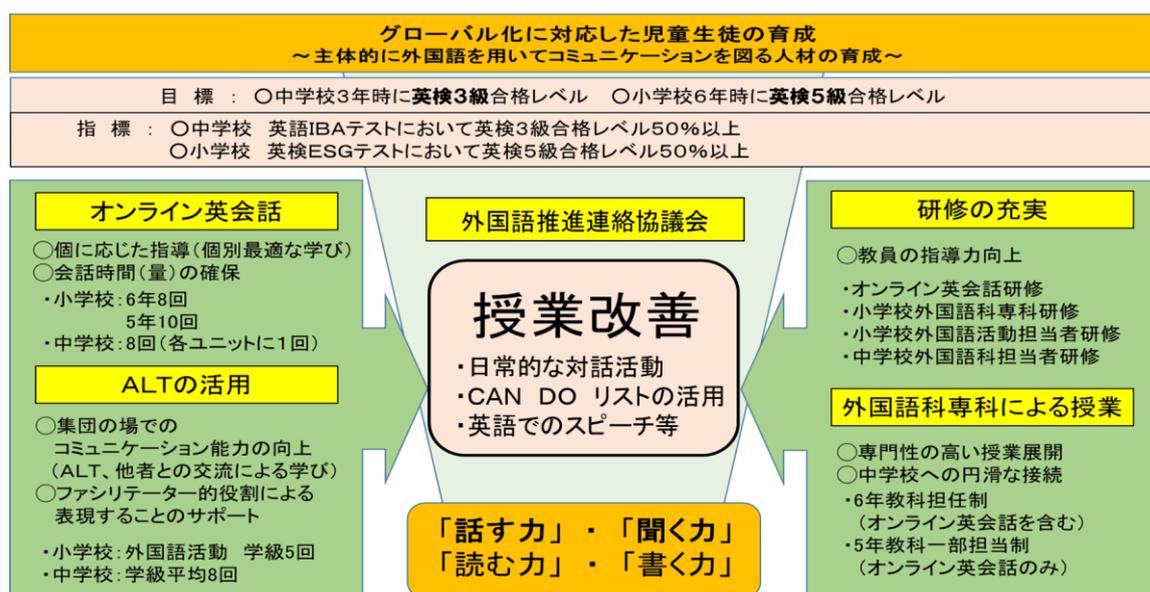
(3) 研修

オンライン英会話を効果的に実施するための授業改善を目的とした研修を年度初めに小中学校各1回実施する。

	実施時期	研修内容
小・中学校	4月ごろ	外国語科におけるオンライン英会話を活用した授業改善について

※参加対象 小学校：5年生担任・外国語専科教員及び希望するもの
 中学校：英語科担当及び希望するもの

【令和6年度飯塚市小・中学校外国語教育推進構想図】



【プラン2 基礎・基本の徹底推進】

～学力の基盤となる「読み・書き・計算」と集中力向上の促進～

『プラン2の設定にあたって』

「読み・書き・計算」は、すべての学力の基礎・基本として、その早期習得は、学力向上においての重要事項である。第2次飯塚市総合計画「確かな学力を育む教育の推進」では、MIMアセスメントにおいて、3rdステージ対象児童の割合の達成目標指数を5%以下に設定し、小学校1年生段階での、ひらがなやカタカナの完全習得を目指し、その取組を進めてきた。また、たし算、ひき算、かけ算、わり算、一次方程式の基本的な計算において、速く正確にできるような基礎・基本の反復練習を継続して行っていくことで、学習に必要な集中力と基礎学力の向上を図る必要がある。飯塚市において家庭や地域の教育力の低下が課題となる中、入学してくるすべての子どもたちに対し、学習の構えとしての基礎学力と集中力を育成し、学力向上につなげていく必要がある。

1 多層指導モデルMIM

(1) 目的

小学校1年生段階において、文字や語句を正しく読めない・書けない状態では、すべての学習に影響を及ぼしてしまうことを見据え、「特殊音節」の繰り返し指導を通して、すべての学力層の児童に確実な言語習得を目指す。

(2) 内容

明治学院大学 海津亜希子氏提唱の「多層指導モデルMIM」において、小学1年生で学習する濁音・半濁音・長音・促音・拗音・用長音などの「特殊音節」に焦点を当て、動作化や絵カード、マッチングゲーム、プリント学習等により重点的に「特殊音節」の習得を図り、アセスメントテストにて、習得状況の厳しい児童を明確にすることで、個別指導の機会を作り、全児童において確実な習得を目指していく。

(3) 研修

多層指導モデルMIMの指導力向上を目指した飯塚市MIM指導者研修会を年間3回実施する。

	実施時期	研修内容
【第1回】	5月ごろ	MIM指導の実際
【第2回】	9月ごろ	MIM-PMアセスメント結果を生かした具体的な指導
【第3回】	1月ごろ	MIMの更なる推進へ向けて(MIM指導の実践発表)

※参加対象 各小学校1学年担任及び管理職及びその他参加を希望するもの

2 徹底反復学習

～小学校～

(1) 目的

「読み・書き・計算」についての基礎・基本の内容を徹底して繰り返し練習すること（徹底反復学習）を通して、学習に必要な集中力と基礎学力を高めることを目指す。

(2) 内容

朝学習等の時間において、「音読」「百ます計算」「漢字習得」について、徹底して繰り返し練習を行う。

①「音読」

音読すべき教材を設定し、発音や姿勢、声の大きさに注意し、短時間集中で繰り返し練習することを通して暗唱する。

②「百ます計算」

たし算・引き算・かけ算・わり算のます計算において、タイムを測定しながら各児童のペースで記録をのばす。

③「漢字習得」

各学年における新出漢字を年度初めに集中して指導し、その後、練習とテストを繰り返しながら確実な習得につなげる。

(3) 研修

①学力向上研修会（小学校）

徹底反復学習の指導力向上を目指した学力向上研修会（小学校）を年2回実施する。

	実施時期	研修内容
【第1回】	7月ごろ	徹底反復学習の充実に向けた担当者のマネジメントについての講話と演習
【第2回】	2月ごろ	学力向上における実践発表と講話

※参加対象 各小学校の学力向上コーディネーター及びその他参加を希望するもの

②学力向上検証委員会

飯塚市教育委員会が、市内の小学校から、「学力向上モデル校」を指定し、「徹底反復学習」の提唱者及び飯塚市教育委員会からの直接指導をとおして、児童生徒の基礎基本の確実な定着、学校全体の組織的な推進体制づくりの支援及び教員の指導力の向上を図り、もって飯塚市内の全小学校の学力向上に資することを目的とする。小学校の「学力向上モデル校」は、陰山英男氏提唱の「徹底反復学習」を中心とした学力向上の取組を通して、読

み書き計算を中心とする基礎・基本の徹底を行う。

小学校の「学力向上モデル校」は、年間3回開催予定の飯塚市学力向上検証委員会にて、徹底反復学習の授業公開や学力向上の取組内容と推進体制等を提案し、講師及び学校教育課から指導助言を受ける。

～中学校～

(1) 目的

「読み・書き・計算」についての基礎・基本の内容を徹底して繰り返し練習すること（モジュール学習）を通して、学習に必要な集中力と基礎学力をつくりだすことを目指す。

(2) 内容

漢字や英語構文の読み・書き、数学の計算（一次方程式）等の各学校が設定する各教科における基礎的な内容について、毎日帯時間を使いながら、プリント等の教材を使って、同じ問題を一定期間繰り返し練習しながら、基礎・基本の内容を確実に定着させていく。

(3) 研修

①学力向上研修会（中学校）

モジュール学習の指導力向上を目指した学力向上研修会（中学校）を年2回実施する。

	実施時期	研修内容
【第1回】	7月ごろ	効果的なモジュール学習の取組についての講話と演習
【第2回】	2月ごろ	学力向上における実践発表と講話

※参加対象 各中学校の学力向上コーディネーター及びその他参加を希望するもの

②学力向上検証委員会

飯塚市教育委員会が、市内の中学校から、「学力向上モデル校」を指定し、「モジュール学習」の提唱者からの直接指導をとおして、児童生徒の基礎・基本の確実な定着、学校全体の組織的な推進体制づくりの支援及び教員の指導力の向上を図り、もって飯塚市内の全中学校の学力向上に資することを目的とする。中学校の「学力向上モデル校」は、小河勝氏提唱の「モジュール学習」を中心とした学力向上の取組を通して、読み書き計算を中心とする基礎基本の徹底を行う。

中学校の「学力向上モデル校」は、年間3回開催予定の飯塚市学力向上検証委員会にて、徹底反復学習の授業公開や学力向上の取組内容と推進体制等を提案し、講師及び学校教育課から指導助言を受ける。

【プラン3 人材育成】

～指導力向上を視点とした人材育成の推進～

『プラン3の設定にあたって』

ここ5年間での飯塚市の小中学校における教諭の年齢層について、20代から30代の若年層の教員が、小学校では4.9%増、中学校では8.9%の増となっている。また、逆に40代から50代の中堅以上の層の教員は、小学校で10%減、中学校では13.7%の減となっており、教員の年齢構成の変動が大きい。さらに、教職員不足を要因とした非正規採用の教員も増加しており、人材育成が急務となっている。また、近年における社会構造の変動において、学校現場において適切に対応するためには、専門的知識・技能を修得し、適時に刷新していくなど、教員に求められる資質能力の向上を図るための更なる取組が必要とされている。これらのことから、指導力向上を目的とした学びの場が重要であり、研究と修養の機会を位置づけていく必要がある。

1 「人材育成計画シート」の活用

(1) 目的

「基礎・向上期」にある若年教員及び「充実・深化期」にある中堅教員に対して、「人材育成計画シート」を活用することにより、若年教員・中堅教員に必要な素養や実践力の組織的・計画的な育成を図る。

(2) 内容

福岡県教育委員会作成の『市町村（学校組合）立学校教員育成指標』に示される4つの視点、A教育公務員に求められる基礎的な能力及び使命と責任、B学習指導と評価の力、C生徒指導と集団づくりの力、D連携・協働力、に基づいて作成された「若年教員計画シート」「中堅教員育成シート」を作成し、指導に活用する。

(3) 人材育成モデル校について

「人材育成計画シート」を活用しての人材育成について、小学校2校、中学校1校をモデル校に指定し、「人材育成計画シート」に基づいた中間評価、総括評価を行う。10月・2月の年2回、管理職、主幹教諭、メンター・メンティーの教職員、飯塚市教育委員会及び筑豊教育事務所により構成される協議会を開催する。（※会場は各学校とする）協議会の内容は下記のとおりとする。

- 1 各メンティーの課題に対応した「重点的な取組」の進捗状況について
- 2 「重点的な取組」から見られる成果と課題について
- 3 課題を受けた今後の取組について
- 4 飯塚市教育委員会、筑豊教育事務所からの指導助言

2 「小中学校助教諭指導力向上研修会」の実施

(1) 目的

飯塚市内の若年教員及び助教諭等同士で研修をしたりコミュニティを形成したりするための場を設定し、若年教員及び助教諭等の人材育成を図り、各学校の学力向上を支える指導力の向上に資する。

(2) 内容

飯塚市役所穂波支所3階「生涯学習ひろば」を使用し、授業づくり等に関する講話や協議・相談といったオンライン研修や集合研修を行う。

(3) 研修

実施時期	研修内容
5月ごろ	指導技術①【学級経営について】
8月ごろ	指導技術②【特別支援教育について】【生徒指導について】
11月ごろ	指導技術③【人権教育について】

※参加対象 小・中学校の助教諭及び若年教員（3年以下）で参加を希望するもの

【プラン4 学力向上検証改善サイクルの機能化】

～全市的な学力向上推進体制の確立～

『プラン4の設定にあたって』

市内各小中学校における、全国学力・学習状況調査実施について、第2次飯塚市総合計画「確かな学力を育む教育の推進」では、小中学校の達成目標指数を全国比100.4%に設定し、学力向上の取組を進めてきた。市全体において、小学校では、近年、達成目標指標に到達しているも、学校間の差が大きく、学校の実態に応じた学力向上の取組の必要性がある。中学校では、達成目標指標に到達することができておらず、各中学校において、調査結果をもとに検証改善サイクルを確立し、課題の分析を通じた学力向上の取組が急務である。

1 「学力向上ヒアリング」の実施

(1) 目的

飯塚市教育委員会による各学校の各種学力調査結果の分析に基づいた課題や具体的な改善策等についての協議・指導助言を通して、学力向上を図る。

(2) 内容

飯塚市教育委員会と各学校長の面談において、各種学力調査の結果分析から導き出された課題やその具体的な改善プランについての協議及び指導助言を行う。

(3) 方法

	実施時期	ヒアリング内容
【第1回】	7月ごろ	各種学力調査結果の分析に基づいた課題及びその改善プランについての協議・指導助言
【第2回】	1月ごろ	取組の成果と課題及び次年度に向けた改善プランについての協議・指導助言

2 教務担当者研修の強化

(1) 目的

各学校の課題を踏まえた学力向上のためのPDCAサイクルの確立を目指す。

(2) 内容

学力向上プランに基づく組織的・計画的な取組を推進しながら、検証改善サイクルを確立し、年度末までに積み残しがないように習熟を図るとともに、効果的な指導方法や小中でのつながりのある学力向上策を共有し、飯塚市の学力向上の方向性について検討・協議を行う。

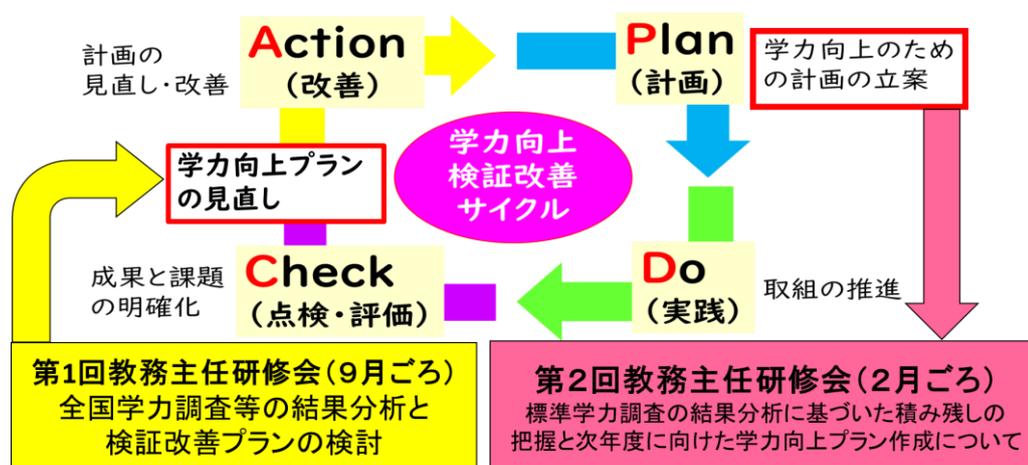
(3) 研修

教務担当者研修会を年間2回実施する。

	実施時期	研修内容
【第1回】	9月ごろ	全国学力調査等の結果分析と検証改善プランの検討 小中連携した学力向上の取組の見直し
【第2回】	2月ごろ	標準学力調査の結果分析に基づいた積み残しの把握と習熟計画、及び次年度に向けての学力向上プランの作成について

※参加対象 小中学校教務担当者

【教務担当者研修会における検証改善サイクル】



3 飯塚市学力向上フォローアップ校の指定

(1) 目的

指定校の学力調査結果における課題に応じた検証改善プランの作成や、学校教育課によるそのプランの実行についての支援を通して、年度内に履修する学習内容について、すべての児童生徒が学習の積み残しなく次年度を迎えることができる学校体制づくりを図る。

(2) 内容

全国学力調査の結果より学力低下の傾向が見られる小学校1校、中学校1校に対し、学校教育課が学校を訪問し、その要因について検討しながら、実態に応じた学力向上策を協議し、学校での取組及び学校教育課の継続的な支援を行っていく。

(3) 支援の流れ

	実施時期	支援内容
【第1回】	9月ごろ	学力に関する課題及び要因の検討
【第2回】	10月ごろ	学校の取組と教育委員会の支援策の明確化
【第3回】	2月ごろ	学力向上の取組の成果と課題

(4) 具体的支援

○学力向上推進体制の機能化

当校の学力向上委員会等に参加し、学力向上プランや検証改善ロードマップ等の改善に向けたコンサルティングを行う。

○課題解決に向けた校内研修の支援

学力分析に基づいた課題解決のための授業づくりについて、校内研修を実施し、全教職員での共通実践に向けた支援を行う。

○日常的な授業改善

当校の実態や要請に応じて指導主事が学校を訪問し、授業観察及び授業者等への指導助言を行う。(各学校2名程度)

○その他学校の要望に応じた支援

学力に関する課題に応じた具体的な支援について、上記以外についても学校の要望に応じて支援を行う。

○ 次代の飯塚市を担うひとづくりについて

1 JA（ジュニア・アチーブメント日本）プログラム

(1) 目的

社会のしくみと経済の働きを正しく理解し、自らの意思で進路選択・将来設計をすることを旨とする。

(2) 内容

① スチューデント・シティ

ア 対象

飯塚市立全小学校（19校）の5年生

イ 学習の流れ

・事前学習

体験活動を行うために必要な経済や金融に関する基礎的な知識や技能を学ぶ。

・体験学習（スチューデント・シティ）施設利用

それぞれの会社の経営側（運営・販売・営業・経理など）と消費側（収支記録・納税など）を交互に体験する。自分で選んだ会社で経営の立場として商品の販売や営業を行ったり、消費者の立場として計画的に物を買ったりするという活動を体験しながら、税のしくみや会社同士のつながり、収入と利益・給与・支出の関係などを学ぶ。

・事後学習

体験から分かったことや今後の学習に活かしていきたいこと等について学ぶ。

② ファイナンス・パーク

ア 対象

飯塚市立全中学校（10校）の1年生（7年生）

イ 学習の流れ

・事前学習

体験活動を行うために必要な経済や金融に関する基礎的な知識を学ぶ。

・体験学習（ファイナンス・パーク）施設利用

あらかじめ設定された（例えば、30歳、既婚、子ども一人、年収650万円など）一人の大人として行動し、その人の収入に応じて月々の家賃・食費・被服費・娯楽費・交通費・投資・預金などのお金（家計の収入や支出）に関する「意思決定」を行い、自らの関心事や希望するライフスタイル等に基づいて将来の進路を体験的に考える学習を行う。

・事後学習

体験からわかったことや今後の学習に活かしていきたいこと等について、まとめる。

2 STEAM教育

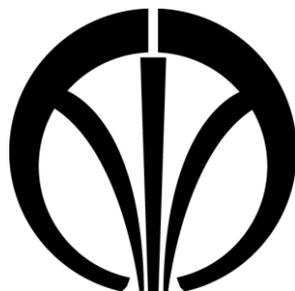
(1) 目的

各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に活用することを通じた、問題解決的な学習を目指す。

(2) 内容

Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics の頭文字をとったものであり、各教科での学習を実社会での問題解決に生かしていくための教科横断的な教育であり、子どもたち自身に課題を発見させ、問題を解決していく学習スタイルを重視した教育を行う。

（飯塚市STEAM教育実証研究指定校：小中一貫校飯塚鎮西校 小学部）



飯塚市学力向上推進プラン

令和6年10月

飯塚市教育委員会 学校教育課